

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	コンビニ（店 長）	販売量の動き	・販売量はお盆を過ぎてから急激に落ち込んだもの の、月全体ではお盆を中心に弁当やパンなどの中食が よく売れた。
		衣料品専門店 （経営者）	販売量の動き	・7月は長雨にたたられ、夏物の売行きは良くなかつ たが、8月に入り猛暑が続いたため非常に良かった。
		家電量販店（店 長）	単価の動き	・以前の客には必要な物を必要な分だけ買うという傾 向が見られたが、最近では、ついで買い（防災グッズな ど）や、まとめ買い（DVDメディアなど）の傾向が 強くなっている。また単品購入時でも、省エネ性の高 い高級タイプ（エアコンなど）や、高付加価値商品の 購入が増えている。
		乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・新型車の登場で販売台数がやや上向き傾向である。
		その他専門店 〔医薬品〕（営 業担当）	来客数の動き	・6、7月の既存店の来客数は前年比100%とぎりぎ りの状態であったが、8月は同102.5%と上昇した。
		スナック（経営 者）	来客数の動き	・常連客から接待がらみの貸切りや団体予約などが多 く入った。お盆の数日間を休業したにもかかわらず、 客入りはコンスタントに好調であった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の初めから真夏日が続き、タクシーの利用客が多 かった。週末には花火大会、歩行者天国、盆踊り大会 などの催し物も多く、人出でにぎわった。飲酒運転の 取締りが厳しかった影響もあった。
	変わらない	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・猛暑にもかかわらず、秋物先取りの売り場展開を 行った結果、秋物の売上は前年実績をクリアした。
		百貨店（売場担 当）	単価の動き	・長く落ち込んでいた来客数が、やや前年並みの水準 にまで回復する傾向が見られる。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・猛暑が続いたため、飲料、豆腐、アイスクリームな ど暑さしのぎの商品が急に動いた。しかし、頼みの旧 盆商戦は客の動きが前半と後半にばらけたため、買上 点数が伸びず、客単価が上がらなかった。
		スーパー（総務 担当）	販売量の動き	・気温の上昇により商品の動きが活発になると期待し たが、それほど伸びていない。特に衣料品では単価が 下がり、売上が伸び悩んだ。
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・猛暑のため、飲料水、ビール、アイスクリームなど が前年に比べ10%以上伸長した。また、タオルや軽衣 料もよく売れた。一方、客は暑さのため外出を控えた のか、売上が前年比3%増加したものの、来客数は前 年並みにとどまった。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・猛暑の影響により、エアコンは前年比約30%増と順 調であったが、その他の家電商品については総じて低 調であった。また、CO2削減に寄与するエコキュ ート（自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機）やIHクッ キングヒーターについては順調に推移している。
乗用車販売店 （経理担当）		販売量の動き	・一時的な新型車効果はあるものの、販売台数は減少 傾向が続いている。また、この時期の燃料高騰は大き な痛手である。	
高級レストラン （スタッフ）		販売量の動き	・能登半島地震の影響が残った夏休みは、観光客の流 れが極端に少なく、お盆期間中の売上は例年の85%で あった。また猛暑の影響もあり、8月の昼の来客数は 同90%と振るわなかった。	
観光型旅館（経 営者）		来客数の動き	・家族旅行を中心に客室の稼働は例年並みだが、同窓 会などの団体が少なく、宿泊人員では若干減少してい る。	
都市型ホテル （スタッフ）		来客数の動き	・レストラン利用客は減少し、客室稼働率は伸び悩ん でいるが、これらを宴会部門の増収でカバーし、前年 同月とほぼ同額の売上を見込んでいる。	
旅行代理店（従 業員）	来客数の動き	・梅雨明けの遅れ、猛暑、ガソリンの高騰などの要因 で、帰省以外の近場への旅行需要が落ち込んだ。ま た、来客数の減少傾向は年初来変わっていない。		

	通信会社（役員）	販売量の動き	・ケーブルテレビのデジタルサービス加入は、県外民放の地上デジタル放送が見られないという区域外再送信問題により、例年に比べ低調に推移している。ただし、インターネットサービスの加入はADSL利用者からの移行があるため、ほぼ順調に推移している。
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・携帯電話のファミリー割引などの受付開始により、店頭への来客数が飛躍的に伸びている。しかし、販売数は増加せず、従来どおりである。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・能登半島地震の風評被害の影響はまだ完全とはいえないが、徐々に回復傾向にある。しかし、8月は主な顧客である個人客の動きが鈍く、前年に比べ1割程度の利用減となった。
	住宅販売会社（総務担当）	お客様の様子	・梅雨明けの猛暑により、中旬までは客の動きが悪く、イベントへの集客も少なかった。ただし、後半は若干持ち直している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・県外からの来街客が減少傾向にある。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑のため、暑さ対策の家電用品を中心にリビング用品がよく売れた。半面、客はサンダル、帽子、Tシャツなどの夏物ファッションについて「無駄な物は買わない、まとめ買いはしない」という態度である。暑さ対策の支払いが増加した分を、ファッション商品の節約でカバーしているようにみえる。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・日常の買い回り品については、客に生活防衛意識が働いている。
	スーパー（営業担当）	単価の動き	・旧盆の帰省客向けの手土産やギフト商品は中心価格帯が前年の2,000～3,000円から低下し、2,000円を割り込む状態である。家族で食べるすしやオードブルなども単価が安く、ボリュームの多いものが好まれ、前年に比べ客単価が低下している。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・例年になく暑い日が続き、8月後半の秋物の立ち上がりが遅れている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストランの売上は低迷から回復できない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・観光客の姿は例年並みに見られたが、タクシーの利用は少なかった。猛暑のせい、夜の繁華街に繰り出す人も例年より少なかった。
	その他レジャー施設（職員）	単価の動き	・来客数は横ばいであった。今年の夏は例年以上に暑かったため、飲料の売上を期待したが伸びなかった。また、土産品の動きも悪かった。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・6、7月は前年の売上、来客数を何とか維持できたが、8月に入ってから猛暑のせい、売上、来客数とも前年を大きく下回っている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・猛暑の影響もあり、夏場の家づくりムードが高まらず、受注は非常に不振であった。展示場の来場者も減少している。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・客は猛暑やガソリンの高騰で外出を控える傾向が強い。とくに猛暑についてはテレビで「外出を控えるように」との報道が見られ、お手上げ状態である。
	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・北陸地方の2度にわたる大地震で観光客が戻っていない。また8月の猛暑に加え、お盆休みがほぼ1週間の長期となったため、「この日がヤマ」というピークがなく、盛り上がりには欠けた。
	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・例年この時期は、お盆休みをはさみ、売上が見込めないが、前年と比較すると売上の更なる落ち込みが目立つ。
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・商談中に客から常に聞こえてくる言葉は「低燃費・小型化・低価格」である。ガソリン価格の高騰と更なる値上がり気配に加え、車両価格の値上げ傾向を反映し、客に買い控え傾向が見られる。半面、中古車の引き合いは増加し、受注も増えている。
	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・家具、インテリア業界は、全国でチェーン展開をしている大手企業を除いては、非常に厳しい状況になっている。
企業動向	良くなっている	-	-

関連	やや良くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者の情報を総合すると、郊外ではコンビニやグループホーム、デイサービスなどの建築用土地を賃借する大型仲介物件の動きが見られる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・婦人衣料に比べて、スポーツ衣料は比較的安定している。非衣料分野は横ばいである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・半年前から受注量が減少し、その後は変化がない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ヨーロッパ、アメリカ市場は好調であるが、国内市場が若干停滞している。
		電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・7月から始まったIT関連の仕事は極めて多忙である。しかし、業界全体ではあまり変わっていない。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・眼鏡産地としては、秋に向けて新型の量産時期にあることや、一部改定された原産国表示ルールへの対応などから、国内の仕事量は増加しているように見受けられる。しかし、総じて厳しい状況が続いている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量はほとんど変わらない。受注単価が上昇し、また縮小していた業種で折込が開始したが、全体的には横ばい傾向である。
		税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き	・中小企業では仕入価格の上昇を販売価格に転嫁する力が弱いため、多くの会社は苦戦を強いられている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・高付加価値商材の販売量の伸びが鈍化し、気候の影響もあると思われるが、全体的に数量が減少している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・建設業は地域に根ざした地場産業であり、受注産業である。公共土木事業に依存している建設会社は地元で仕事がなくなると苦境に陥る。以前から経営難のうわさがあった老舗の建設会社がついに倒産に追い込まれたが、他人事とは思えない。
輸送業（配車担当）		受注量や販売量の動き	・最近の円高等により繊維関係の物量が動かず、特に東南アジア向けの衣料品の出荷が少なくなっている。また、燃料価格の上昇分を取引先に転嫁できず、ますます厳しい。	
悪くなっている	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・建築基準法が6月20日に一部改正され、建築確認申請から工事着工までに相当の期間が掛かるため、一時的な売上減少も予想される。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣の求人数が減ってきている。また、求職者も技術を持った人材が少ないため、企業のニーズにこたえることができない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・市中心部の再開発事業が9月にしゅん工する。関連業種と周辺小売業種では近年、県外資本の大型ストアの進出などで苦戦が続いていたが、これを機に活気付く。
		民間職業紹介機関（経営者）	周辺企業の様子	・工作機械メーカーから、先行きの受注が減少見込みのため、要員は現状のままとの情報があった。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・情報関係からの求人が多く見られる。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は前年同月比で14.7%と2けた増となった。中でも、正規雇用を求めている34歳以下の若年層の増加が目立った。
悪くなっている	-	-	-	-